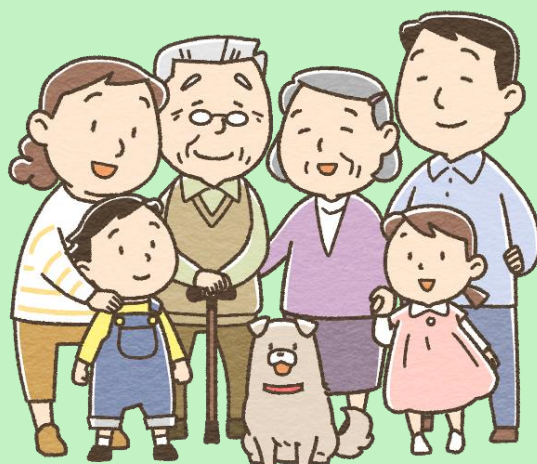

第13回

「いのちのつながり」 小作文作品集

令和5年度



主催：小笠榛原モラロジー事務所

後援：牧之原市・牧之原市教育委員会

公益財団法人モラロジー道德教育財団

「命のつながり」小作文

表彰式

令和6年3月10日（日）

10:00～11:30

牧之原市相良総合センター

「いーら」

《式次第》

開 会

主催者あいさつ

小笠榛原モラロジー事務所
代表世話人 前田 恭典

来賓あいさつ

牧之原市長 杉本 基久雄 様
牧之原市教育長 橋本 勝 様

審査報告 選考委員長

元牧之原小学校校長 植田 伸子 様

表 彰

表彰作品朗読

優秀賞受賞者 3 名、特選受賞者 3 名

講 話

静岡県モラロジー協議会
会長 杉山 直子

閉 会



目次



目次	1
募集経過	2
主催者あいさつ	3
審査報告	4
審査結果	5
受賞作品		
優秀賞	6
特選	7
入選（5年生）	9
入選（6年生）	12
応募者名	16
応募者数	20

第13回「いのちのつながり」小作文募集要領・日程・経過

作文テーマ	親・いのち・感謝・思いやり・家族等
作文募集範囲	牧之原市立小学校 9校
作文募集対象	5・6年生
募集開始	令和5年10月16日（月）
募集締め切り	令和5年11月30日（木）
応募総数	両学年合わせて593編
作品選考員	小笠榛原モラロジー事務所担当者7名（1次・2次選考）
最終選考員	審査委員長 元牧之原小学校校長 植田伸子先生
作品選考	
1次選考	令和5年12月11日（月） 274編選出
2次選考	令和5年12月18日（月） 76編選出
最終選考	令和6年1月
各賞内訳	優秀賞 3編（市長賞、教育長賞、モラロジー道德教育財団賞） 特選 3編（静岡県モラロジー協議会長賞） 入選 20編（5年生10編、6年生10編） 佳作（上記26編以外の最終選考作品50編）
賞 品	優秀賞・特選・入選の方には賞状と副賞をお贈りします。 佳作の方は審査結果にお名前の掲載をさせていただきます。
表彰式	3月10日（日） 10時～11時30分 牧之原市相良総合センター い〜ら 福祉団体活動室

主催者挨拶

小笠榛原モラロジー事務所

代表世話人 前田 恭典

小笠榛原モラロジー事務所主催による、「いのちのつながり小作文コンクール」は、平成21年にスタートしまして、途中コロナ禍の中、中断はありましたが、牧之原市教育委員会様をはじめ、各学校の校長先生や担任の先生方のご協力のお陰で、今回で13回目を迎えることとなりました。

主催者を代表しまして、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。

本年も、牧之原市内9小学校の5、6年生に応募を呼びかけましたところ、593編もの小作文が寄せられました。

私自身も、1次選考、2次選考と応募作文の選考に携わりましたが、どの作品からも、日常の中に溢れる家族の愛情や、ちょっとした出来事から感じられる家族や友達の思いやり、また団らんの時間の大切さ等、温かく思いやり溢れる家族の中で、子供たちが健やかに、たくましく成長している姿が伝わってきました。開催名称は、小作文コンクールとなっており、各作品に賞がつけられてはいますが、子供たちが家族や友達と過ごした時間を振り返り、自分の経験や感情を素直に言葉する、このこと自体が非常に価値のあることであり、本コンクールの開催の意義でもあります。

現代社会は価値観の多様化により、様々な形やあり方が認めされるようになってまいりましたが、どんなに時代が変わろうとも、社会の最小単位は家庭であり、温かで思いやりのある家庭の存在が、地域社会のより良い発展に欠かすことができない、重要な基盤であると考えています。

これからも、当事務所の「いのちのつながり小作文コンクール」が各学校の道徳教育の一助となり、明るく住みよいまちづくりに貢献することができれば、幸甚に存じます。

今後とも、何卒ご協力いただけますようお願い申し上げます。

改めて、本コンクールの開催にご尽力いただきました皆様に、感謝申し上げ、主催者のあいさつに代えさせていただきます。ありがとうございました。

審査報告

選考委員長

元牧之原小学校校長

植田伸子先生

小笠原モラロジー事務所主催の「いのちのつながり」小作文コンクールは、今年で第13回を迎えました。牧之原市内小学校5、6年生の皆様から593点の応募がありました。一人一人の作品を丁寧に読ませていただき、第一次選考、第二次選考、最終選考を経て、本日の表彰式に至りました。

審査にあたり、この小作文コンクールの趣旨を踏まえ、文章の技巧的な部分以上に「自分事として課題を捉えているか」「相手を意識した説得力のある豊かな表現であるか」に重きをおいて審査いたしました。

これまで、身の回りで起こった事象や経験の中で考えた「命」「家族」「感謝」について書かれた内容が大半を占めていた中で、今年は、地球上で起こっている紛争や戦争の悲劇、貧困や環境問題等をあげて、「命」についての自論を述べている作品が目立ったのが特徴でした。これは、今、世界で取り組み始めたSDGsの視点とつながるものと言えます。学校の学習でSDGsを扱い始めたからではないかと推察しました。地球規模での諸問題を自分事として捉え、それらを解決するその根本にあるものとして、「命」をあげ、その子ならではの「命観」を文章の中に込めていました。入賞作品の中の一文中にある「ぼくたち人間は、命を通してつながりあっている」「命も大切だけど、私を産んでくれたお母さんも大切にしていきたい」「ぼくの心の中には、さまざまな命が入っている」「当たり前前にこそ感謝する」こういった思いを子供たちの心の中から引き出していくこと、子供たちの訴えを一人でも多くの人に伝えていくことが、このコンクールの目的であるし、この表彰式で入賞者に作文を朗読してもらう意味が存在すると思います。

この小作文コンクールが、子供たちの学校での学びとともに、意味あるものとして今後続いていくことを願わずにはられません。

最後になりましたが、本事業に御賛同いただいた各小学校の校長先生、そして、子供たちの作文を指導して下さった担当・担任の先生方に心よりお礼申し上げます。

第13回牧之原市立小学校『いのちのつながり』小作文

コンクール審査結果

優秀賞

牧之原市長賞	わたなべ 渡邊	しゃび 紗飛	菅山小6年1組 「命」
牧之原市教育長賞	とづか 戸塚	あい 愛衣	牧之原小5年1組 「いのち」
モラロジー道德教育財団賞	ふじうら 藤浦	ゆうのすけ 佑之輔	相良小6年1組 「いのち」

特選

静岡県モラロジー協議会長賞	おおはし 大橋	なつ 那都	地頭方小5年1組 「いのち」
静岡県モラロジー協議会長賞	いけだ 池田	そうい 創偉	地頭方小6年1組 「感謝をすること」
静岡県モラロジー協議会長賞	はらさき 原崎	りゅうま 琉真	牧之原小5年1組 「いのち」

入選

※順不同

5年生

あきの 秋野	まこと 真	相良	「親」
たなか 田中	さわ 桜和	菅山	「感謝」
すずき 鈴木	せんすけ 千介	地頭方	「いのち」
ふくよ 福世	しらは 白晴	川崎	「家族」
いけだ 池田	あお 逢	川崎	「感謝」
いとう 伊藤	さな 紗那	細江	「感謝」
やまぐち 山口	あゆと 鮎人	細江	「命」
あつみ 渥美	ゆうり 友理	細江	「いのち」
しば 柴	さつき 颯希	勝間田	「食品ロスといのち」
らち 良知	ななか 菜々花	坂部	「親」

6年生

うえた 植田	たいが 虎翔	相良	「人のいのちと関わる食物」
えんどう 遠藤	さな 紗和	菅山	「命」
きむら 木村	あかね 茜	萩間	「命の円」
まぶち 馬渕	ゆうと 佑都	牧之原	「いのち」
なかだ 仲田	れん 蓮	牧之原	「感謝」
ながた 永田	あおい 蒼	牧之原	「感謝」
いとう 伊藤	はると 玄翔	川崎	「人の優しさ」
しば 柴	ゆづき 優月	勝間田	「助け合い」
ますや 舂谷	ののか 野乃佳	勝間田	「家族」
らち 良知	ゆう 優	坂部	「お父さんいつもありがとう」

佳作

※順不同

5年生

秋野 巴那	相良	曾根 千聖	牧之原
名波 凜夏	相良	紅林 亜依	牧之原
加藤 風花	相良	吉場 日和	川崎
増田 愛凜	相良	永田 彩夏	川崎
竹嶋 心都	相良	加藤 聖彩	川崎
富田 瑠有	相良	枝村 実寿歩	川崎
増田 実礼	相良	中島 彩愛	川崎
名波 こはね	菅山	黒木 楓夏	細江
茂木 ユカリ	菅山	八木 花梨	細江
横山 大翔	萩間	増田 智哉	細江
八木 翔平	萩間	大石 和奏	細江
水野 成	萩間	秋山 美緒	勝間田
植田 竜ノ介	地頭方	西下 結	勝間田
山本 流聖	地頭方	市橋 結月	坂部
植田 新	地頭方	関 いつき	坂部

6年生

伊藤 妃菜	相良	山田 源	川崎
永野 双葉	相良	坂下 主真	川崎
森田 二睦	相良	杉本 季樹	勝間田
増田 紘貴	相良	櫻井 里咲	勝間田
瀧谷 涼月	相良	斉藤 優羽	坂部
杉田 歩美乃	萩間		
増田 二葉	萩間		
佐藤 ありさ	地頭方		
西村 柚珠	地頭方		
矢口 華蓮	牧之原		
永田 來那	牧之原		
中西 莉愛	川崎		
櫻井 凜	川崎		
萩原 裕晟	川崎		
稲垣 里鞠	川崎		

優秀賞 牧之原市長賞

命

菅山小学校 6年1組

わたなべ しゃび
渡邊 紗飛

命とは、ぼくたちになくてはならないものです。なぜなら命があるからこそ、ぼくたちは、喜び、悲しみ、楽しみ、家族や友達と笑いあえることができるからです。

しかし、戦争によって尊い命が失われていっています。戦争をしている国は命の尊さを考え直すべきだと思います。

もし、友達、先生、お世話になった方が急に命を落としてしまったら、とても悲しい気持ちになるからです。ぼくは、どんな命でも、大切さは変わらないし、ぼくたち人間は命を通して、つながりあっているんだと思います。

上辺だけの戦争反対ではなく、戦争の一番の悲劇である「命を奪い合う」ことに視点をあてて、説得力のある言葉で思いを訴えています。特に「ぼくたち人間は、命を通してつながりあっている」という一文には、胸をしめつけられました。12歳の子供が分かっているのに、どうして大人がわからないのでしょうか。

優秀賞 牧之原市教育長賞

いのち

牧之原小学校 5年1組

とづか あい
戸塚 愛衣

私は、いのちがすごく大切だと思います。なぜならお母さんが必死で私を産んでくれたし、お母さん1人で私を育ててくれたからです。

私は、この1度もらったいのちを大切にしていきたいです。この1度もらったいのちを無駄にしたら、お母さんが必死になって私を産んでくれた努力が無くなってしまうからです。

私は、いのちも大切だけど、私を産んでくれたお母さんも大切にしていきたいなと思いました。

産んでくれた母親への深い感謝を表しています。この親子の温かくそして一生懸命な日常生活が、浮かんできました。「いのちも大切だけど、私を産んでくれたお母さんも大切にしたい」という愛衣さんの思いにお母さんも（生まれてきてくれてありがとう）と思っていることでしょう。

優秀賞 モラロジー道徳教育財団賞

いのち

相良小学校 6年1組

ふじうち ゆうのすけ
藤浦 佑之輔

ぼくが今、楽しく生きているのはご先祖様のおかげです。ひいおじいちゃんは、第二次世界大戦に行きました。戦争に負けてロシアにつかまりました。でも死なないで日本にかえってきてくれました。

そして、ぼくのおばあちゃんが生まれて、お父さんが生まれて今のぼくがいます、これはすごいことです。戦争からかえってきてくれたひいおじいちゃんに感謝します。

ご先祖様がつないでくれたバトンをもち、人生を楽しみながらおもいっきり走ってつないでいきたいです。

ひいおじいちゃんが戦争から生きて帰ってきてくれたことから今の自分が存在しているという、まさに御先祖様からの「命のつながり」を実感として感じ取っています。この作文の裏側には、こういう話を子供にしてくれている先祖を大事に思う家庭がみえます。思いっきり走ってつないでいって欲しいと心から願いました。

特選 静岡県モラロジー協議会長賞

いのち

地頭方小学校 5年1組

おおし なつ
大橋 那都

いのちは一番大切です。

私たちが生きているのには理由があります。

1つ目は、お母さんが私たちが産んでくれた事。

2つ目は、「いのち」と言う、生きていくのに一番必要な物があるからです。

私たちは、お父さん、お母さんがこの「いのち」を守って産んでくれたからこそ今を生きています。

病気をわずらっている人も、一日いのちを大切にして、生きています。

私はいつかみんなのいのちを守る医者になり、お父さん、お母さんに「いのちをくれてありがとう」と、言いたいです。

「命を大切にする」気持ちは、「命を守ってくれた人」の存在から生まれるものなのですね。私が産まれてくる前提に、お父さん、お母さんが命を守ってくれていたから、という那都さんの思いには、深い感謝の気持ちが込められています。医者になる夢は、お父さんお母さんへの恩返しなのですね。深い命観に胸を打たれました。

特 選 静岡県モラロジー協議会長賞

感謝をすること

地頭方小学校 6年1組

いけだ そうい
池田 創偉

何事にも感謝をするべき。

今、当たり前なこと、当たり前に行っていること、その当たり前が、当たり前でなくなる前に感謝をしておくことが大切なのではないか。例えば、学校に安全に来れていること。3食の食事が食べられていること。そして、今の自分達の当たり前が、当たり前でない人達もいる。

当たり前からこそ、感謝をすること、これが本当の当たり前なのではないか。

「当たり前なこと」をキーワードに、自分の感謝について考えていることを一気に作文に表しました。そこには、今、当たり前ではないことが起こっているという悲劇に対する創偉さんの静かな抗議が作文から伝わりました。当たり前でなくなる前に感謝しておけば、悲劇は起こらないという主張が強く伝わりました。

特 選 静岡県モラロジー協議会長賞

いのち

牧之原小学校 5年1組

はらさき りゅうま
原崎 琉真

親がうんでくれた命。がんばって育ててくれた命。ぼくの心の中にはさまざまな命が入っています。

牛、ぶた、とり、そして魚もいます。ぼくは、たくさんの命にたすけられてきました。

お母さん、お父さん、妹、ぼくはさまざまな命に助けられ、すくわれてきました。ぼくの中の命はたくさんあります。

そしてぼくはここまで生きてきています。

ありがとう。命。

「ぼくの中にたくさんの命が入っている」「たくさんの命に助けられてきた」と、自分の命だけではなく、牛・豚・魚等の自分が食してきた「命」に対して思いを寄せています。「命は一つ」と言われるのが通例ですが、一つではなく、たくさんの命が入っているからこそ、たくさんの命に助けられたこそ大切にしたい、という琉真さん独自の考え方に感銘を受けました。

入選（5年生）

「親」

相良小学校5年1組
あきの まこと
秋野 真

お父さんとお母さんへ

今まで大切に育ててくれたし、命をつないでくれたし、しっかりとやるべきことや、どうしたらいいかわからないことを聞いたら、わかりやすくせつめいしてくれたのが、すごくすごくうれしかったし、楽しかった。

すごくぼくは成長を実かンできた。ありがとう。

自分がめざすものへのゆう気になった。今まで本当に本当にありがとう。そしてこれからもよろしく。

父母から受けたものへの感謝と共に、それを自分の成長として実感していること。さらに「自分が目指すものへの勇気となった」と感じています。お父さん、お母さんからの言葉が、真さんの「命の躍動」につながっているのだと伝わりました。

「感謝」

菅山小学校5年1組
たなか さわ
田中 桜和

みんな、感謝する時には「ありがとう」を言います。

私は、ありがとうを言ってくれる人に感謝したいです。

ありがとうは、あたり前のように感じるけど、あたり前じゃなくて、言ってもらったら、とてもうれしい気持ちになれます。言う時も、やさしくて、あたたかい気持ちになれます。

なので、これからもありがとうをたくさん言ったり、言ってくれた人に感謝したいです。

みじかな場所も、ありがとうでいっぱいにしたいです。

「いのち」

地頭方小学校5年1組
すずき せんすけ
鈴木 千介

ぼくは、命を一どきらいになったことがあります。

だけど、ニュースで深く考えずに命を落とすことを知りました。そして、その家族はとても泣いていました。そして思ったんです。そんなかんたんに命を落とすとほかの人が、かなしむことがわかりました。

だから命をそまつにしないほうがいいなとわかりました。

それから一番命を大切にしようときめました。

対象が、あくまでの「相手」。「ありがとう」を言ってくれる人に感謝している立場を一貫して通しています。相手に思いを寄せることができている桜和さんは、きっと、自分優先ではない日常をおくっているのだと思います。温かい気持ちにさせてくれた作文です。

千介さんに何があったのでしょうか。一度きらいになった命の大切さに気付いてよかったですね。同じニュースを見ても、千介さんのように、考えられない人が多いと思います。一つのニュースで、自分の思いを巡らせ、考え方を変えていくまっすぐな心がこの作文から伝わりました。

家族に支えてもらっている生活を当たり前と思わず、素晴らしいことと白晴さんは、考えています。家族を単に集合体ではなく、「支え合っている存在」と感じていることから、福世一家の絆を感じ取りました。支えがしっかりしていると、強くなります。そう感じた作文でした。

「感謝」

川崎小学校 5年1組
いけだ あお
池田 逢

ぼくは、みんなにサポートされています。

ぼくが行くサッカーチームには、友達の親やコーチが「がんばって」と気合を入れてくれます。友達も自主練習にさそってくれます。

だから、必ずプロサッカー選手になって、みんなに感謝の気持ちを伝えてまた、成長したいです。

ぼくの夢は、スペインでプレーして大活躍してみんなに追われるプロサッカー選手になりたいです。

ここまでサッカーを好きにさせてくれたのは、親、友達、友達の親、おばあちゃん、おじいちゃん、お兄ちゃん、コーチのみんなのおかげです。

大きな夢を宣言できました。作文の中には、ウソ偽りのないまっすぐな逢さんの思いが溢れ出ています。「感謝の気持ち」が、サッカーを頑張っていける原動力なのですね。周りの人たちも、応援してきてよかった、と思っています。逢さんの頑張りが、みんなを幸せな気持ちにしてくれていると思います。

「命の大切さを最近知った」というこのタイミングで、この作文を書く機会があり、思いを言葉で残すことができよかったです。命に関わるボランティアをしたい、という夢も宣言することができました。家族への感謝を「自分の夢」につなげていくことは、とても尊いことだと思います。

「家族」

川崎小学校 5年1組
ふくよ しらは
福世 白晴

私は、毎日の生活で、家族にささえてもらって、生活をしています。

でも、それはあたり前なことではありません。とても、素晴らしいことです。

そうやって、いっしょに毎日家族とすごしているだけで、私は、楽しいし、うれしいし、幸せです。

なにかいやなことがあったら、相談してくれたり、逆に、相談してあげたり、そうやって、ささえあって生活できていることは、本当に幸せです。

これからも、いろんなことがあると思いますが、ささえあってのりこえていきたいです。

私にとって家族は、いてほしい存在です。

「感謝」

細江小学校 5年2組
いとう さな
伊藤 紗那

私は、自分の家族や、自分の命に感謝しています。理由は私を産んでくれたお母さんやお父さん、そして私の家族に、私を育ててくれてありがとうと思ったからです。

なので、家族には感謝しています。私は、自分の命の大切さを最近知ったので、これから命を大切に、命を素晴らしいものだという事をわすれないようにしたいです。

私は、将来、保護猫などの命に係わるボランティア活動にチャレンジして命を大切にしていきたいです。

「命」

細江小学校 5年2組
やまぐち あゆと
山口 鮎人

ぼくたちは、自然や命を大切にしていないと思います。

なぜかという、ぼくたちは気がるに、ありをころしたり、植物をぬいたり、とったりしていると思うからです。

また、ゴキブリやいろいろなこん虫や植物、生き物をころしてしまっていると思います。ぼくは、たった一つの命でも大切にしたいです。なぜかという、虫や植物、動物、人間みんな家族や友達がいます。

なのでこれからは、命をむだにせず一つの命を大切にしてください。

「命」を人間に限定せず、あり・ゴキブリ・植物にまで広げ、それらを差別することなく「一つの命」と捉えています。鮎人さんが、人間だけでなく動植物が生きる自然を大切にしたい、という思いが根底にあるのだと思いました。

「いのち」

細江小学校 5年1組
あつみ ゆうり
渥美 友理

いのちは、生きていの中でだれにでもあるものです。

ですが、そのいのちは簡単になくなってしまうものでもあります。いのちがなくなってしまう生き物は、そこから空にいつてみんなには、見えない存在になってしまいます。

それに、自分に生きるけんりをくれた親などを悲しませてしまいます。

これからも親などに支えてもらいながら生きていくでしょう。だから、毎日生きているよろこびを感じながらいっしょうけんめい生きましょう。

お父さん・お母さんは、自分に「生きる権利」をくれた存在なのですね。「生きる権利」とも深い言葉です。この言葉の意味を友理さん自らが捉えたからこそ、「生きていくよろこびを感じながら一生懸命に生きましょう」と訴えることができましたね。

「食品ロスといのち」

勝間田小学校 5年1組
しば さつき
柴 颯希

今5年生では、世界で問題になっている「食品ロス」をなくそうと思っています。

食品ロスをなくすために、のうかの、あさのさんが作っている、はいきするえだまめをつかって0円食堂をひらこうとしています。

えだまめをつかって、えだまめスイーツをつくっています。材料ひは全校でアルミかんをあつめて、それをおかねにかえています。ほかにも、いとうえんに見学にいたり、おこめづくりの田植えといねかりをたいけんしたり、みんなでいけんをだしあいました。

世界には、ごはんがたべられなくて、苦しんでいる人がいます、その人のために食品ロスをなくすのです。

「助け合う」ことの大切さを考えました。人と助け合えば、どんどん前に進むことができるけれど、一人で悩んでいると、たくさんのかかる時間がかかってしまう、と考えました。さらに、一人だけで前に進むのではなく、大勢で前に進んでいくことの大切さも考えています。説得力のある文でした。

頑張っているお母さんに対して「あこがれ」をもっている菜々花さん。どんなにかお母さんにとって、嬉しいことであり、これからの力になることでしょう。この作文は、お母さんに捧げる感謝のお手紙になりました。

入選（6年生）

「人のいのちと関わる食物」

相良小学校6年1組
うえた たいが
植田 虎翔

「いのちのつながり」と聞いたとき、理科で学習した、食物連鎖のことを思い出しました。すべての生き物は「食べる・食べられる関係」でつながっている。

たとえば、ザリガニ→メダカ→ミジンコ、を食べて生きている。

このように、生き物は他の生き物を食べて生きている。この関係がくずれていくと人間の食べ物にもえいきょうをあたえるので「いのち」をつなぐためにも、生き物がすみやすい環境をつくっていく必要があると思う。

学習したことを知識で留めるだけでなく、それを「命のつながり」そして、環境問題へと思考を深め、広めています。この作文を書くことをきっかけとして、自分の主張を固め、述べることができました。文章構成も筋道をしっかりと立ててあり、巧みです。

自分の身の回りのことだけでなく、世界情勢にめを向け、自分の考えをしっかりと持っているというのは、すばらしいと思います。平和を求める紗和さんの姿勢は、きっと身近な人への思いやりにつながっていると思います。

「親」

坂部小学校5年1組
らち ななか
良知 菜々花

あなたは親に「産んでくれてありがとう」と思ったことはありますか？

私たちが今、生きていられているのはお母さん、お父さんのおかげです。お母さん、お父さんにめいわくをかけていませんか？

私は、お父さんが小さいころに死んでしまい、お母さんが1人で子ども3人んを育てています。

そんなお母さんはストレスをかかえているかもしれません。お母さんは、そのストレスを私には見せません。

そんなお母さんは、私のあこがれです。

「命」

菅山小学校6年1組
えんどう さな
遠藤 紗和

今、世界ではロシア対ウクライナ、ガザ対イスラエルの二つの場所で戦争が起こっています。私は、戦争が大きらいです。

戦争は、ただ人の命をうばい合う、意味の無い争いだからです。

兄弟ゲンカみたいな、甘いものじゃなく、一度始めたらどちらかが滅ぶまで止まらなく、いくつも人の命が消えます。

でも、私達は平和を願う事しかできず、ただ戦争をながめる事しかできず、とても、悲しいのです。

私は、意味があるものでも、戦争が大きらいです。これを書いている時も、私は毎日、みんなの平和を願っています。

「命の円」

萩間小学校6年1組
きむら あかね
木村 茜

私が、今、生きられているのは、はるか遠くの昔の御先祖様達のおかげです。

御先祖様から今の私まで「生まれる大きく育つ 結婚する」このように、昔から今まで、この命の円のように、なっています。もしも、この中の1人がかけたばあい、お父さん、お母さんも、出会えなかったらうし、そもそも「今」がなかったと思いました。

この命の円で、私は、1人ががんばって生きると、100人以上の命や幸せがおとずれることを、みんなに伝えたいです。命のつながりって、とっても素晴らしいと思いました。

命のつながりを円として捉えたところが斬新でした。家系図のようなつながりのイメージよりも円のイメージの方が、御先祖様とのつながりが身近に感じ、血のつながりをより連想させてくれました。「一人ががんばって生きると、100人以上の命や幸せがおとずれる」という主張には、未来を明るくしていく力が伝わりました。

「いのち」

牧之原小学校6年2組
まぶち ゆうと
馬淵 佑都

ぼくが、いのちについて考えたのは、ぼくがコロナウイルスにかかってしまったときです。

コロナウイルスにかかっているとき、ぼくは、もう死んでしまうのかと考えてしまいました。

そんなとき、家族がご飯をくれたり、はげましてくれて、ぼくは、はげましてくれているんだ、元気にならなきゃと考えました。

はげましてもらったいのちを大切にしていきたいです。

12歳で、「死」の恐怖を味わい、どんなにか怖かったでしょう。その分、恐怖を元気に代えてくれた家族に感謝の気持ちをもつ機会を与えてもらいましたね。一つの経験を自分の力に代えていくことができた佑都さんに、家族も勇気をもらったと思います。

「感謝」

牧之原小学校6年2組
なかた れん
仲田 蓮

ぼく達は、周りの人達に支えられて生きています。

なので、ぼく達を支えてきてくれた人達に感謝を伝えなければなりません。

直接「ありがとう」と言うのもいいと思うし、直接言えない方は、手紙で伝えるのもいいかもしれません。

ぼくは、親がつかれている時は、少しでも楽になるように手伝いなどをします。そうすると、次の日の朝は、とても元気です。ぼくは、とてもうれしい気持ちになります。そんなふうに相手を思って接してあげると、きっと感謝されます。

そうすると相手も自分もうれしくなります。そんなことをこれからも続けていきたいです。

感謝を伝えるだけでなく、「感謝を伝える行動」に移しているところが蓮さんの立派なところですよ。そのうえ、「次の日元気になる」と感じています。一人よがりのやさしさではなく、相手を思って接し、「感謝する」「感謝される」の関係をつくっていきたくて考えたところに独自性がありました。

かけがえのない二人のお友達への感謝の気持ちを作文に表しました。是非、二人のお友達にこの蒼さんの気持ちを伝えて欲しいと思います。親や先生など大人には伝えられない悩みをそのまましておかないで、相談できる友達がいるということは、本当に二人は、宝物ですね。それに気付いている蒼さんも素敵な心の宝物もっています。

「人の優しさ」

川崎小学校 6年1組
いとう はると
伊藤 玄翔

ぼくは、去年まで先生の言うことを聞かずに、授業を受けていませんでした。そのせいで先生や家族、クラスみんなにめいわくをかけていました。

そんなぼくを、みんなはやさしく受けとめてくれた。先生がどなったりするけど、いつもやさしくサポートしてくれたのがとてもうれしかった。

そんな気持ちのいい学校がぼくは大好きだ。ありのままの自分を出せることは幸せであり、とてもすごいことであると思う。

いろんな人にめいわくをかけつづけてしまっているけど、この学校に通えてよかったと思う。

またいつの日か、どんな事でもいいので、やさしくせつしてくれたみんなに恩返しをしたいです。

6年生になって、やっと「ありのままの自分」を出ることができるようになったんですね。周りの人たちがそれを分かって、待っていてもらったことを玄翔さんが実感として感じる事ができて、前向きの自分を取り戻すことができました。「ありのままの自分」をこの作文で表せたことがよかったです。

「助け合う」ことの大切さを考えました。人と助け合えば、どんどん前に進むことができるけれど、一人で悩んでいると、たくさんの時間がかかってしまう、と考えました。さらに、一人だけで前に進むのではなく、大勢で前に進んでいくことの大切さも考えています。説得力のある文でした。

「感謝」

牧之原小学校 6年1組
ながた あおい
永田 蒼

ぼくは、つらいことがあったら相談できる友人が二人います。

その二人に、何回も相談に乗ってもらい、何回も救われています。ぼくの友人が、苦しんでいたらすぐ相談に乗ってあげたいです。

相談に乗ってくれる一人の友人は悩みを一人で抱え込んでしまいます。

その友達が、ぼくに相談できるぐらいもっと中を深めていきたいです。

「助け合い」

勝間田小学校 6年1組
しば ゆづき
柴 優月

私たちは、人と助け合って生きています。

私たちは、人のことを思い、色々な言葉を発して、助け合いながら、友達や家族の人達と一緒に人生の道を歩んでいきます。

人は、助け合わないと、人生の道はゆっくり、ゆっくり時間をかけないと歩んでいきません。だけど、大勢の仲間達と助け合えば人生の道は、どんどん進んでいきます。

たとえば、一人の友達がなにかになやんでいて、それをみんな無視して、助け合わなければ、その友達は、たくさんの時間をかけて前に進みます。

だけど、その友達に声をかければ、たくさんの時間をかけずに前に進んでいけます。

だから、一人だけで前に進まないで大勢で助け合えば、今よりももっと前に進めるかもしれないですね。

「 家族 」

勝間田小学校 6年1組
ますや の の か
栞谷 野乃佳

自分が、悲しかったとき、不安だったときに、支えてくれました。例えば、「失敗しても良いよ。お母さんは、のんちゃんが成長していること知ってるから、大丈夫。」と言ってくれました。

お母さんにとっては、何気ない一言かもしれないけど、私にとっては、その一言で救われました。

今まで支えてくれたお母さん。

育児、仕事、家事、何から何まで大変かもしれないですけど、これからは、私が支えていきます。

家族の何気ない一言が自分を救ってくれた経験をあげています。これを読んだお母さんは、きっと、嬉しいだろうし、自分の子供がこんなに成長したかと、とても驚いていると思います。何気ない一言を大切に思うことができるのは、家族の絆が根っこにあるからだと思います。

「 お父さんいつもありがとう 」

坂部小学校 6年1組
らち ゆう
良知 優

毎日家族のために働いてくれてありがとう。休日には、ぼくとゲームや野球のキャッチボールをしてくれてありがとう。

そのおかげで、ぼくは、毎日楽しく生活をしています。

お父さんが言ってくれた「人のいやがることは、ぜったいしてはいけない」と言う言葉を大切にしたいと思いました。だから学校で友達や下級生にやさしく話すことを意識しています。

前に、二年生がけんかをしてしまったときに、やさしく話をしてあげました。そうしたら二人とも理解をして仲良くいっしょに帰っていました。

これからも、お父さんが言ってくれた言葉を大切にしたいです。

お父さんからの言葉をしっかりと心におき、それを行動に移すことができるということは、本物だと思います。遊んでくれるだけでなく、大切なことを教えてくれるのが家族ですね。それを素直に受け止めることができている優さんも立派です。

『いのちのつながり』小作文応募者

(順不同)

相良小学校

5年1組

相羽 茅乃
 赤堀 颯
 秋野 真
 秋野 巴那
 新井 莉央奈
 伊村 奏雲
 大石 晴都
 大沢 栄翔
 岡田 徠花
 角田 心空
 後藤 連次
 澤田 睦太
 富田 瑠有
 名波 蒼大
 牧 悠斗
 増田 青玖
 増田 京
 増田 心夏
 増田 実礼
 増本 さくら
 松下 琉奈
 矢部 美空
 良知 俊輝
 渡辺 美琴

5年2組

秋野 莉心
 大原 りな
 小野田 聖都
 加藤 風花
 川田 廉人
 紅林 あおい
 紅林 瑠衣
 小原 美羽
 西藤 晃汰
 菅原 小暖
 杉本 なる
 鈴木 義士
 竹嶋 心都

竹中 慧
 田崎 楓真
 出口 栞衣那
 寺澤 歩生
 長野 心寧
 西川 麻人
 檜原 竜
 増田 愛凜
 増田 陽向
 松栄 寧々
 松下 杏朱
 水野 瑛介
 ルミオ サチコ
 渡辺 直み

5年3組

青島 昊汰
 秋野 惺哉
 植田 琉生
 大石 陽遥
 川嶋 光音
 川嶋 翠々
 河原崎 遥音
 紅林 縁
 桑原 みなみ
 佐々木 七海
 四ノ宮 颯汰
 四ノ宮 美優
 進藤 莉音
 直里 幸夏
 鈴掛 里歩
 鈴掛 美璃
 都築 亜友華
 名波 凜夏
 原間 陸斗
 藤澤 叶夢偉
 藤本 空
 増田 杏珠
 松下 凌大
 三浦 悠史
 宮部 恭孟
 森田 真奈穂

吉田 蒼羽

6年1組

石川 百音奈
 河村 美亜
 紅林 がく
 鈴木 佑弥
 高塚 隆誠
 富田 すばる
 中島 彩喜
 仁藤 海隆
 藤野 愛理
 増田 愛結
 増田 一花
 松下 河緯
 三浦 咲月
 森田 湖々乃

6年2組

秋野 京之介
 一木 日向
 大石 烈汰
 大高 蒼翔
 小畑 伯斗
 紅林 快都
 紅林 奈々
 小塚 蒼生
 篠崎 こう愛
 鈴木 玲里
 高知尾 吐空
 名波 一翔
 名波 華歩
 名波 水都
 西 希々果
 松田 蒼矢
 森田 有空
 山本 惠唯

6年3組

伊藤 妃菜
 岩堀 湊
 植田 虎翔
 小笠原 秀花

河原崎 匠
 川原崎 陽葵
 北川 吉助
 久保 千秋
 鈴木 小百合
 高知尾 蒼空
 瀧谷 涼月
 富田 晃也
 友田 遥斗
 永野 双葉
 長谷川 くにこ
 濱崎 想生
 浜本 璃子
 藤浦 佑之輔
 前澤 風月
 増田 絃貴
 増田 羽菜
 増田 湊斗
 増田 瑠奈
 松下 結朱
 森田 二睦
 矢部 碧土
 矢部 佑奈
 山下 なゆみ
 横山 晴彦

菅山小学校

5年1組

池田 月歌
 井出 采希
 大幡 煌
 川田 彩未
 川田 芹奈
 澤田 蓮斗
 高塚 胡桃
 高塚 弦
 田中 楓
 田中 桜和
 永田 航太郎

永田 瑠那
名波 こはね
中村 帆花
中村 帆花
名波 華歩
名波 莉緒
蓮池 日和
原田 茜衣
増田 将太郎
茂木 ユカリ
芳野 裕也
ロマーニ ペテル
渡邊 羽菜

6年1組

赤松 成瑠
市野 芽依
伊藤 優羽
伊藤 夢音
遠藤 紗和
川田 陽麻
紅林 依千里
田平 陽菜
田平 雄飛
戸塚 絆杏
富田 航平
中川 心耀
永田 煌晟
畑 千咲
藤波 采稚
松浦 妃杏
山崎 颯太
山本 鞆
渡邊 紗飛

菟間小学校

5年1組

石田 ヨーク
今村 祐萌
岡林 優心
川上 あいら

黒田 悠斗
源間 俊介
柴田 寿乃
柴田 仁歩
鈴木 琴那
鈴木 巴琉
中嶋 美桜
中山 朝陽
名波 太心空
西尾 結愛
水野 匡
水野 成
横山 光空
横山 結衣
横山 律騎
横山 大翔
八木 翔平

6年1組

渥美 宗熙
大石 楓
木村 茜
紅林 亮介
黒田 茉奈
源間 彩虹
柴田 朔治
杉田 歩美乃
鈴掛 絢菜
鈴木 あさひ
鈴木 直樹
坪池 絢香
戸塚 晴太
中嶋 一尋
長野 拓実
萩原 結菜
長谷川 櫻
藤野 航暉
藤野 陽生
増田 二葉
増田 裕奈
松浦 知采
松村 呼乃華

三浦 鼓太郎
八木 桃花

地頭方小学校

5年1組

植田 新
植田 竜ノ介
大窪 空翔
大澤 咲花
大橋 那都
大橋 瑞希
小野寺 海美
加藤 琉翔
河原崎 瑛斗
小塚 隆之介
斎田 梨鈴
櫻井 遥斗
櫻井 琉生
清水 夏輝
鈴木 亜依
鈴木 千介
鈴木 凜
曾根 帆
中嶋 優月
永松 央丞
西原 夢波
橋口 流摩
原口 珀人
樋口 優利
増田 湊太
増田 俐音
松井 奏風
村松 慶
山下 芽那
山本 流聖

6年1組

池田 創偉
植田 絢音
大窪 来知
樽林 怜莉
小塚 梨瑚

齋藤 凜花
櫻井 清生
佐藤 ありさ
清水 萌花
住田 実優
曾根 鳳生
田中 好音
寺田 紗也
永井 日和
中山 莉乃葉
西原 龍生
西村 柚珠
原口 颯斗
原口 未来
原口 大和
原口 莉子
平山 颯太
増田 小万里
増田 陸斗
増田 流惟
松浦 暖
松下 詢
本杉 旺奨
山崎 煌土
山崎 麗愛

牧之原小学校

5年1組

荒畑 芽菜
飯田 未渚奈
伊藤 瑠花
岩倉 由依
太田 陽丸
河原崎 琉成
紅林 亜依
黒田 晃希
小杉山 創生
小林 由奈
鈴木 結羅
鈴木 望羽

曾根 千聖
高畑 桜愛
戸塚 愛衣
原崎 琉真
本郷 ゆづ
増田 真那人
松下 絢勇
松本 莉衣奈
三浦 瑛人
水野 太知
武藤 夢夏
村上 智紀
村松 朝
山内 蒼斗
山内 ひかる
和田 結衣

6年1組

植田 紘太
榊 心優
佐藤 小莉
塩崎 蓮菜
高柳 喜将
塚田 圭汰
中嶋 柊太
名波 陽愛
平岡 晃明
藤瀬 勇吹
松下 颯悟
向笠 朝陽
村田 愛
山内 香穂
吉田 悠真
渡邊 悠真

6年2組

河原崎 英侍
五野上 雷霸
鈴木 詩乃
鈴木 星菜
谷口 華蓮
中島 快斗

永田 蒼
中田 快凜
仲田 蓮
永田 來那
永田 和
中西 泰雅
西村 拓也
福水 瞬
藤原 陽斗
松下 心奏
馬淵 佑都
向笠 珠莉
森田 花寿紗
吉國 友埜

川崎小学校

5年1組

池田 逢
石神 琉煌
内川 結衣
枝村 優海
大石 健流
大石 朱音
加藤 旦樹
加藤 聖彩
杉山 諒晟
鈴木 光之助
関 伊織
高木 夏葉
谷澤 心虎
譚 鼎
濱崎 心愛
福島 唯愛
福世 白晴
増田 雅
村松 奏弥
本杉 心花
山崎 楓雅
渡邊 由亜
渡辺 柊矢

5年2組

枝村 彩里
枝村 歩乃歌
大石 潤花
大川 巧真
太田 萌華
小野田 敬介
加藤 佑菜
神谷 叶太
高橋 凰牙
中村 一珈
中村 琉雅
永田 彩夏
西田 遼太
増田 空
松井 綺友莉
松倉 心菜
間宮 太朗
村田 優來

5年3組

池田 奏音
白井 謙徒
枝村 実寿歩
大石 蒼也
大石 しん
片瀬 宏太
川嶋 祉琉
川村 桜
神崎 優
酒井 美佳
佐原 直紀
鈴木 心菜
鈴木 奈乃羽
関 香織
永田 周也
中島 彩愛
中山 健太郎
増田 彪冴
松島 暖斗
村上 らむ

山口 沙和
吉場 日和

6年1組

朝比奈 瑠汰
石川 蘭華
河内 千樹
河内 董
柴田 權
辻村 望々
永田 貴一
福島 寧々花
増田 花音
松本 衛
マルコス ユウジ
八木 心
山本 樂真

6年2組

伊藤 玄翔
稲垣 里鞠
大石 陵永
加茂川 絢斗
北川 唯人
坂下 主真
櫻井 凜
スギヤマ プラドリヤン
永田 悠
永田 夢有
中西 小由妃
中西 莉愛
南條 幹太
萩原 裕晟
平岡 成翔
松坂 宗哉
山田 源

細江小学校

5年1組

渥美 友理
石黒 千暖

石橋 大知
 伊藤 温来
 榎田 湊
 大石 琴愛
 大石 和奏
 大久保 竣平
 影山 琥珀
 岸本 紫音
 糸田 美颯
 黒木 楓夏
 こいけ ありせ
 小出 蘭
 杉山 昊之進
 高塚 暖人
 中嶋 乃彩
 中村 花
 西谷 将平
 原 ジュリアナ
 藤井 遼仁
 増田 絵莉
 マセド マリアナ
 マチャレ キンベリー
 矢部 向葵
 山中 永太
 山本 咲季
 山本 梁大
 吉中 慶晟

5年2組

伊藤 紗那
 稲葉 大知
 大石 朔汰
 大森 琉奈
 岡村 ありす
 カーマン マティス
 香曾我部 実花
 川口 陽大
 川嶋 大毅
 岸本 来音
 木村 葵
 木村 英智
 小林 奏介

杉山 葵泉
 杉山 実愛華
 鈴木 逢太
 ドミンゲス ユミ
 内藤 佑真
 西谷 悠花
 橋本 陽依
 堀内 煌央
 前田 メリー
 増田 クインビー
 まつもと ゆいと
 望月 理絢
 山口 鮎人
 山口 葉瑠
 山村 流輝
 山本 京吾
 米山 悠空
 増田 智哉
 八木 花梨

勝間田小学校

5年1組

秋山 美緒
 浅野 令旺
 飯塚 奈央
 飯塚 はる
 泉地 コノミ
 泉地 羽妙
 小川 凧
 加藤 岳
 櫻井 創多郎
 柴 颯希
 杉本 宇美
 武田 きみか
 内藤 悠愛
 縄巻 那月
 西下 結
 松下 結香
 三輪 凌司
 村松 綾依華
 本杉 朱

本杉 脩羽
 本杉 みら
 山本 遥
 山本 星那
 山本 祐里葉
 山本 陽希
 吉岡 一成

6年1組

飯田 和翔
 飯塚 翔埜
 泉地 来希
 大石 心優
 大石 輝空
 大石 陽南
 太田 空
 岡村 健太郎
 岡村 心菜
 岡村 桃菜
 木下 心那
 小原 悠雅
 櫻井 里咲
 柴 優月
 杉村 萌依
 杉本 季樹
 鈴木 獅竜
 鈴木 颯悟
 鈴木 朋和
 高橋 優和
 寺尾 紗羽
 戸塚 遼成
 中島 優斗
 成川 緒美
 西下 あいり
 舛谷 野乃佳
 村松 かや
 村松 剛
 村松 みおむ
 本杉 燦
 森木 琴葉
 山下 雛
 山本 晃雅

坂部小学校

5年1組

池ヶ谷 友維
 石津 遼之助
 市橋 結月
 小関 彩友
 小関 日陽
 後藤 湊音
 齊藤 遼
 須藤 悠木
 関 いつき
 西谷 勇人
 羽柴 成美
 福代 夏芽
 福代 悠人
 山下 聡仁
 横山 翔季
 吉添 莉美
 吉田 朔花
 良知 愛優
 良知 菜々花

6年1組

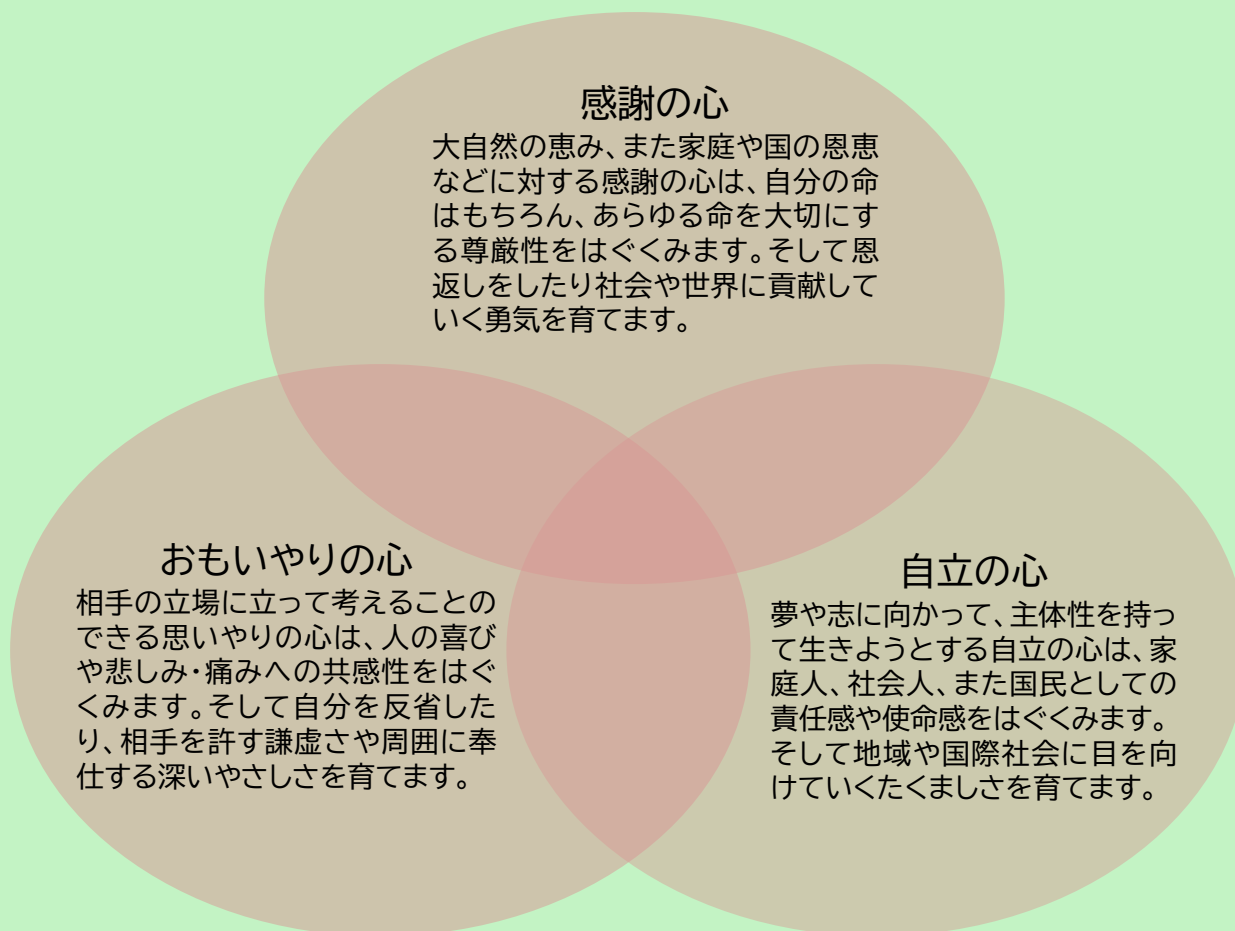
大石 幸奈
 斉藤 優羽
 齊藤 竜輝
 澤口 飛和
 杉本 羽徠
 高橋 涼
 田中 楓馬
 松浦 虹心
 間淵 喬哉
 村田 修
 吉永 健人
 良知 優



小作文応募数

学校名	5年	6年	合計
相良小学校	79	61	140
菅山小学校	21	19	40
萩間小学校	21	25	46
地頭方小学校	30	30	60
牧之原小学校	27	36	63
川崎小学校	63	30	93
細江小学校	61		61
勝間田小学校	26	33	59
坂部小学校	19	12	31
合計	347	246	593

モラロジー教育では「3つの心」を育てます



●モラロジーとは●

モラロジー(Morality)は、「道徳」を表す(moral)と「学」を表すロジー(logy)からなる学問名です。日本はもとより世界の倫理道徳の研究をはじめ、人間、社会、自然のあらゆる領域を考察し、人間がよりよく生きるための指針を探求し提示することを目的とした総合人間学です。

モラロジーでは、一人ひとりの幸せと心豊かな社会の実現には、人間の品性を高める質の良い道徳の実行が必要と考えています。一般に、道徳は「人間の行為の範囲」と理解されているように、行いや形式面が強調されがちです。モラロジーでは、行いはもちろんですが、それ以上に行いのもととなる心のあり方(こころづかい・考え方)を重視しています。

第13回「いのちのつながり」小作文作品集

発行日 令和6年3月

発行 小笠原モラロジー事務所

〒421-0412 牧之原市坂部 620-1

TEL(0548)29-0515

URL: <https://www.ogasa-haibara-mc.jp/>

E-mail: morality12658@gmail.com